

第99回全国高校サッカー選手権大会愛知県予選レポート

今年は新型コロナウイルスの影響で総体中止という衝撃のニュースから1年が始まりました。様々な人の協力や御支援のおかげで高校サッカーの代名詞である『高校サッカー選手権大会』が開催されました。日常から支援していただいている保護者の皆様。大会運営をしてくださる役員の皆様。そして、新型コロナウイルス感染症終息に向けて戦ってくださっているすべての医療従事者の皆様に感謝します。

高蔵寺高校サッカー部創立以来の3年生が残って戦った選手権大会でした。受験勉強と両立しながらの学校生活は、ハードな毎日ですがとても濃く今後の彼らの人生の糧になっていくと信じています。

1回戦 v s 半田高校 10月17日(土)

大雨の中高蔵寺高校会場で行われた1回戦は、立ち上がり積極的に仕掛けながらチャンスを作り出していく。FW 鈴木ワタル(3年)の得点で先制しリズムをつかんだまま後半戦へ。後半にはMF 島田直輝(2年)のミドルシュートが入り試合を決定づけた。終始集中した守備から徹底した攻撃で主導権を握り2-0で勝利した。



ドリブルで存在感を見せた⑩早川健太2年(名古屋 FCEAST)



キャプテンとしてチームを統率⑬小掠真樹(名古屋 FCEAST)



体を張って相手の攻撃を阻止した④長谷川翔也(大森中)



右サイドで起点を作った⑨原野亘生2年(桃陵中)

※ () は出身チーム

2回戦 VS 日本福祉大学付属高校 10月18日(日)

1回戦とは打って変わってさわやかな気候の中行われた2回戦。前日の疲労を感じさせない気迫を感じました。相手は県1部リーグ所属の日本福祉大学付属高校。前半立ち上がりにCKから失点。混戦からDFラインの背後をつかれ失点。なかなかペースをつかむことができず前半が終了した。後半に入りGKからビルドアップしていくもアタッキングサードに侵入しシュートまでいくことができなかった。なかなか攻撃の糸口が見つけ出せない中MF早川健太(2年)のドリブルからFKを獲得。MF鷲野太志(3年)が直接狙うもポストに阻まれ得点には至らなかった。合計のスコアは0-6と完敗だったが強豪校との試合を終えて選手たちはとてもいい経験ができたと話をしていました。



果敢にボールを追いかける⑩鈴木ワタル(瀬戸FC)



攻守にわたり活躍した⑦鷲野太志(フェルボール愛知)



積極的に突破を仕掛ける⑥足立怜(知多中)



左サイドで幾度もピンチを救った⑩相原要生(石尾台中)



守備のかなめ⑤鈴木慧太(尾張旭中)



好セーブを連発した①増田諒真(瀬戸FC)